



全ての教科・領域における 新聞記事データベースの活用を目指して



岡 亨

<抄録>

文部科学省は、2020年に向けた教育の情報化に関する総合的な推進方策として「教育の情報化ビジョン 21世紀にふさわしい学校教育」を実現しようとしている。そこでは、デジタル教科書・教材・機器の普及・促進が記されている。また、学校図書館においても「学習情報センター」の機能が重視された、新しい時代の新しい学校図書館の創造が望まれている。そして、次期指導要領の全教科・領域において展開されるであろう、アクティブ・ラーニングの授業では、デジタル教材を活用する機会が増すと考えられる。そこで、東京学芸大学「デジ読評価プロジェクト」の協力のもと、4年前から新聞記事データベースの活用を行ってきた、その活用の一部を紹介する。

<キーワード>

学校図書館、全ての教科・領域におけるアクティブ・ラーニング、教育の情報化ビジョン、デジタル教材

1 はじめに

土庄町立土庄小学校は、昨年4月に4校が統合してできた、児童数555名の小豆島で一番大きな小学校である。小説『二十四の瞳』や自由律俳句の尾崎放哉の終焉の地として有名な瀬戸内海の小豆島にある。最近では、ドラマの舞台として、瀬戸内国際芸術祭の開催地（土庄小学校の児童は、コシノジュンコさんとコラボして作品づくりをした）として、オリブ牛等でも有名である。

土庄小学校の学校図書館の様子は、まさに「進撃の学校図書館」、大賑わいである。毎日、100人以上の児童が本を借りにくる。多いときには、200人を超えるときもある。また、図書ボランティアの方は、40名弱いて、読み聞かせやラミネート貼り等、活発な活動をしている。特に、読み聞かせは、全学年全18クラスにおいて、毎週木曜日、朝の読書の時間に行われている。また、行政等の努力のおかげで、「学校司書」も配置されている。

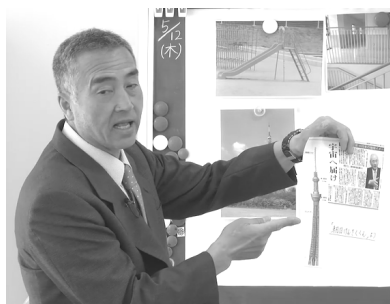
その学校図書館において、アクティブ・ラーニングに向けて、教師自らが考え、探究していく姿勢こそ大切であることを肝に銘じ、「紙の資料とともにPCやタブレットアプリを使った、デジタル教材の活用も積極的に提案していこう」「十年前と同じ授業ではない授業改善をしていこう」とチャレンジと発信を続けている。

本稿では、さまざまな教科・領域の授業における「朝日けんさくくん」(朝日新聞の記事データベース)の活用について、これまでの活用の一部を紹介したい。

2 活用事例

(1) 算数「角とその大きさ」(4年土庄小学校 H28)

学校で角度のあるものを探し、その角度を測った。そこまでは教科書での学習であり、付録の傾き分度器を使った。さ



<写真1：算数「角とその大きさ」での活用>

らに、範囲を広げて角度を測る。実際に行ってみるわけにもいかないので、朝日けんさくくんの出番である。東京スカイツリーの記事を活用して、骨組みの角度を調べた。本も活用した。

(2) 社会「地震からくらしを守る」(4年土庄小学校 H28)

折しも、社会でこの単元を学習しているときに、熊本で地震が発生した。この



<写真2：熊本地震をタブレットで調べる>

機に、南海トラフ地震に向けて自分ができることとは？と児童に問いかけたと思った。朝日けんさくくんで現実起こっていることとして動機づけした。

(3) 理科「夏の星」(4年土庄小学校 H28)



<写真3：流星群をタブレットアプリで探す>

夏の星の学習を行った後、家族と一緒に自主的に夏の星座を見てほしいと思い、流星群についての記事を紹介した。流星群をゲットしてね!

OKA, Toru : 香川県土庄町立土庄小学校(香川県小豆郡土庄町湊崎甲2080番地の1)

流星群 11~14日見ごろ 今年は多め

夏に多くの流れ星を見ることが出来る「ペルセウス座流星群」が、今年は11~14日に見ごろを迎える。国立天文台によると、最も多くの流れ星を観測できるのは、12日午後10時ごろから13日未明にかけての見込み。今年は例年より多くの流れ星が見られるという。流星群は、午前0時ごろに北東の空のペルセウス座付近にある放射点を中心にすべての方向に現れる。「広い範囲を見渡すのがコツ」と天文台担当者。目が暗さに慣れるまで、15分以上観察を続けるのが



おすすめだ。1時間で45個以上を見られる可能性がある。天文台では特設サイト (<http://nao.jcamp.nao.ac.jp/phenomena/201608-perseids/index.html>)も開設している。

<写真4：流星群についての記事>

(4) 国語「ふるさとをしょうかいしよう」(安田小学校 H24)

ふるさと小豆島の動植物(地域の自然)、小豆島駅伝(地域のスポーツ)、そうめん・しょうゆ(地域の特産品)、農村歌舞伎・安田踊り(地域に伝わる伝統芸能)等を朝日けんさくくんで検索して新聞を作った。



<写真5：ふるさと小豆島を紹介する新聞>

(5) 総合的な学習の時間「土庄っ子」(4年土庄小学校 H28)

学校の周りを探検した。「シオマネキ」などの生き物の検索をした。



<写真6：自然観察員の方と自然探検！>

(6) その他「クジラを見たよ」(2年北浦小学校 H26)

旅行で沖縄に行った際、慶良間諸島国立公園の慶留間島に渡った。小豆島がある瀬戸内海国立公園は、昭和9年に我が国で最初に指定された国立公園だ。対して、慶良間諸島国立公園は、平成26年に指定された一番新しい国立公園だ。慶良間諸島でクジラを目にした感動を伝えるため「慶良間クジラ」と検索して出てきた記事とともに、その体験を子どもたちに話した。

ザトウクジラ30トン、鯨術的ジャンプ 沖縄・慶良間諸島【西部】

沖縄本島・那覇から西へ約40キロ、沖縄県慶良間諸島の周辺海域にザトウクジラが繁殖活動に訪れ、ホエールウォッチングの観光客らを魅了している＝写真、山本壮一郎撮影。

ザトウクジラは体長13～15メートル、体重約30トンにもなる大型のクジラ。冬の間の子育てや交尾などのために同海域に現れるとされ、春になると餌を求めて北上を始める。

「慶良間村ホエールウォッチング協会」では、昨シーズンは239頭の個体を識別、今シーズンは39頭を確認したという。ホエールウォッチングは、4月4日まで受け付ける予定。



<写真7：クジラ発見！>

3 おわりに

現代の人物や世の中の動きを知るためには、朝日けんさくくんはとても有効なツールである。子どもたちの興味や関心を広げ、またそれに応えてくれるツールである。小学生、特に低学年が主体的に使うには難しい面もあるが、他のツールと合わせることで十分に活用できる。授業時間全ての時間で朝日けんさくくんを使うのではなく、知りたいとき、調べたいときに使うようにするとよい。

現在、デジタル教材として、朝日けんさくくんの他にも、指導者用・学習者用「デジタル教科書」、ドリルアプリ「やるKey」、地図アプリ「アクティブ・ラーニングマップ」、百科事典「ポプラディアネット」「ニューワイド百科事典」、「ひまわりリアルタイムWEB」などの活用を行っている。子どもたちが学習したいときに、信頼性の高い、そして新しいものをきちんと提供し、探究心・思考力や学力を向上させたい。

少しずつ実践を積み上げ、実践が全校に広がり、学校図書館が「アクティブ・ラーニング」を支えるものとして、そして、学校の要としての学校図書館を構築するためにチャレンジしていきたい。



<写真8：ドリルアプリによるタブレット学習>